

令和6年度 新秋田元気創造プラン戦略6における主な取組状況とその成果について

目指す姿1 秋田の将来を支える高い志にあふれる人材の育成

施策の方向性1 地域に根ざしたキャリア教育の推進

- ・ 職場定着就職支援員(20人)を配置し、求人開拓や生徒・保護者に対する情報提供・進路相談を行ったほか、地域に根ざした企業を紹介する「ふるさと企業紹介」を実施した。
- ・ 小・中学校において、児童生徒の望ましい勤労観・職業観を醸成するため、職業調べや職場見学、職場体験等を実施した。
- ・ 高校において、ハローワーク等関係機関と連携し、インターンシップを実施した。参加生徒数は51校3,453人で前年度から224人減少したが、実施事業所数は1,316事業所で前年度から133事業所増加した。

施策の方向性2 社会の変化とニーズに応じた専門教育の推進

- ・ 産業人材育成事業において、3D-CAD等のデジタル技術の活用に関する専門知識及び技術を有する外部講師を活用し、由利工業高校と鹿角高校の高校1、2年生を対象とした特別講義を実施した。また、スマート農業に関する専門知識及び技術を有する外部講師を金足農業高校に派遣し、県内の農業科及び工業科の教員を対象とした教員研修会を実施することにより、最先端の技術を身に付けて活躍できる人材の育成に向けた指導力の向上を図った。

目指す姿2 確かな学力の育成

施策の方向性1 新たな時代に対応した「秋田の探究型授業」の推進

- ・ 小・中学校においては、「秋田の探究型授業」の更なる充実を図るため、学校訪問指導等により授業改善を支援したほか、ICTを活用した授業力向上事業モデル校の取組成果等を情報発信した。
- ・ 学習集団の少人数化を図り、きめ細かな指導による基礎学力の定着・向上を図るため、少人数学習推進事業において、30人程度学級を小・中学校全学年で実施し、小学校24校、中学校42校に、臨時講師46人、非常勤講師57人を配置した。
- ・ 高校では、授業で一人一台端末を活用するなど、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた取組を推進した結果、秋田県高等学校学習状況調査において「普段の授業で生徒同士で意見交換したり自分の考えを発表したりする活動をよく行っている」と答えた生徒の割合が9割を超えた。

施策の方向性2 一人ひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進

- ・ 教育・医療・福祉等の専門家で構成した小・中学校等特別支援チームが、小・中学校等の要請に応じた相談・支援を実施した(県北23回、県央34回、県南12回)ほか、高校においても高等学校特別支援チームを編成し、校内支援体制の充実や児童生徒の学習・生活上の支援に関する助言を行った(県北20回、県央12回、県南18回)。
- ・ 研修を希望する小・中学校を対象に、通常の学級の担任による授業提示に基づく協議を実施し、障害のある児童生徒に対する指導・支援に係る通常の学級の担任の実践的な指導力の向上を図った(38校)。

目指す姿2 確かな学力の育成

施策の方向性3 学びに向かう力を育む就学前教育・保育の推進

- ・ 就学前教育・保育アドバイザーを配置する10市村においては、アドバイザーの訪問等による伴走型の支援により、教職員の専門性の向上や就学前教育・保育と小学校教育との円滑な接続に向けた幼保小の連携の充実が図られたほか、幼児教育センターの機能を活用し、アドバイザーの未配置市町村への支援に取り組んだ結果、新たに2市が幼児教育推進体制構築や架け橋期のカリキュラム開発・実施のためのアドバイザー配置等の意向を示している。

施策の方向性4 魅力的で良質な教育環境づくり

- ・ 高校において、一人一台端末の整備やプログラミング教材の導入を行ったほか、教員のICT活用指導力向上に向け、外部機関を活用した教員研修を実施し、授業の更なる充実を図った。
- ・ 県立学校の老朽化や再編に伴う整備について、鹿角高等学校及び比内支援学校の工事が完了し、金足農業高校ほか4校については工事を計画的に推進している。
- ・ 児童生徒への指導や教材研究に一層注力できるよう、小・中学校に学校サポーターを92人配置した。これにより教員の負担軽減が図られ、児童生徒と向き合う時間を確保することで、学びの充実へと繋げることができた。

目指す姿3 グローバル社会で活躍できる人材の育成

施策の方向性1 グローバル化に対応した英語教育の推進

- ・ 中学校と高等学校の英語担当教員が合同で参加する「中高連携授業改善セミナー」を実施し、互いの指導法への理解を深め、中高間の円滑な接続を図った。また、同セミナーでは外国語指導助手も交えて指導法を共有し、今後は生徒の「発信力強化」を目指すという共通の方向性を確認した。
- ・ 中高の英語担当教員の希望者37人が、外部講師による研修「教師の英語力アップトレーニング」で実践的なトレーニングを体験後、オンラインのTOEIC IPテストを受験し自らの英語力向上を図った。

施策の方向性2 多様な国際教育の推進

- ・ 「オンライングローバルラーニングプロジェクト」の一環として、指定校による国際交流が活発に行われた。由利高校は修学旅行で台湾の高校を、角館高校は台湾の姉妹校をそれぞれ訪問し、生徒たちは文化紹介、共同授業、探究活動の英語発表など多様な活動を体験することで、英語でのコミュニケーション意識の向上と、異文化理解を深めた。

施策の方向性3 県民の国際理解の推進と多文化共生の推進

- ・ 県民の国際理解の促進を図るため、国際交流員による国際理解講座等を47回開催したほか、海外交流の架け橋となる人材の育成を目的に、甘肅省から研修員1人を受け入れ、秋田県立博物館や秋田県埋蔵文化センター等で研修を実施した。
- ・ 県内在住外国人の安全・安心で暮らしやすい環境を確保するため、秋田県国際交流協会内に設置した秋田県外国人相談センターや地域振興局単位に配置した地域外国人相談員(9人)が、在住外国人の様々な生活相談等に適切に対応した(相談件数:外国人相談センター276件、地域外国人相談員279件)。

目指す姿4 豊かな心と健やかな体の育成

施策の方向性1 規範意識と自他を尊重する心を育む教育の推進

- ・ 秋田県道徳教育推進協議会を開催し、学校と家庭・地域との連携や学校教育における道徳教育のあり方について協議し提言をまとめたほか、「命の大切さ」について認識を深めるため「いのちの教育あったかエリア事業」を実施し、その取組を県民に発信した。
- ・ 秋田県いじめ問題対策連絡協議会を開催し、いじめの早期発見、解決に向けた取組について協議するなど、いじめの組織的対応について関係機関と連携を図った。
- ・ 幼稚園や認定こども園の総会、市町村教育委員会への訪問といった機会を活用し、低年齢化に対応した健全利用啓発講座の周知に努めた結果、講座を実施する市町村は前年度から2つ増え、累計で18市町村となった。

施策の方向性2 インクルーシブ教育システムの推進

- ・ 特別支援学校との交流及び共同学習を行った学校(園)は、前年度から8校増の77校、実施回数も11回増の147回となった。また、特別支援学校は、地域の団体等との交流活動として、地域が主催する行事での活動や自校が主催する地域との活動、地域貢献活動等を継続しており、回数も前年度から94回増の766回となった。

目指す姿5 地域社会の活性化と産業振興に資する高等教育機関の機能の強化

施策の方向性1 多様な資源を活用した教育・研究・社会貢献活動の促進

- ・ 秋田県立大学及び国際教養大学の運営や施設設備等の整備に対して支援を行い、両大学における教育研究環境の充実を図った。
- ・ 秋田県立大学に対し、「アグリイノベーション教育研究センター」における、スマート農業に係る研究、人材育成、技術開発等に要する経費を助成し、大学において企業等と連携した共同研究を進めたほか、スマート農業技術の普及・指導に携わる専門人材である「スマート農業指導士」を認定した(18名)。
- ・ 看護系大学・短大や私立専修学校等の運営に対し助成(10校)したほか、地域の文化や歴史を学び、学生がふるさと秋田に関する幅広い教養を身に付け、積極的な社会参加や地域貢献につながる私立大学等の取組に対し助成した(4件)。

施策の方向性2 次代を担う学生の確保と人材育成への支援

- ・ 秋田県立大学及び国際教養大学において、特別選抜入試制度を実施し、県内出身学生の確保を図った(秋田県立大学:総合型選抜・学校推薦型選抜(97名)、国際教養大学:グローバル・セミナー入試(21名))。
- ・ 私立大学、短期大学、専門学校等が県内企業と連携して実施する人材育成の取組や、インターンシップなど学生の県内就職を促進する取組等に対して助成した(7件)。
- ・ 県内高等教育機関(12校)が行う入学金及び授業料の減免に対して支援を行い、学生の経済的負担の軽減を図った。
- ・ 県内の高等教育機関が一堂に会した進学相談会を開催することにより、県内高校生の県内進学への意識醸成を図った。

目指す姿6 生涯にわたり学び続けられる環境の構築

施策の方向性1 多様な学びの場づくり

- ・ 障害者理解を図るため、当事者参加型の「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」秋田大会を開催した。ハイブリッド型にしたこともあり、6つの事業所と1つの市教育委員会、そして1つの大学が出展し、139人が参加した。
- ・ 県立図書館では、市町村立図書館・学校図書館に向けた展示・貸出用セット資料の内容追加及び更新を行ったほか、県民の課題を解決するための各種テーマ展示を実施し、読書ニーズに応えるための機能強化に努めた。
- ・ 「読んだッチリレー文庫」の設置(累計設置数1,028か所)や「県民読書の日」に合わせたトークイベント(参加者数404人)などの実施により、子どもの読書環境の充実や、県民が読書に親しむ気運の醸成を図った。

施策の方向性2 良質な文化芸術に親しむ機会の充実と文化遺産の保存・活用

- ・ 県立博物館施設4館における利用者数は、目標を大きく上回る結果となった。特に近代美術館では、「金曜ロードショーとジブリ展」が17万人を超えて過去最高となる入場者数を記録したほか、各施設で開催した特別展・企画展にも多数の来館者があった。県民のニーズも考慮しながら、良質な文化芸術に親しむ機会を提供した。
- ・ 秋田県文化財保存活用大綱に基づき、縄文遺跡群や民俗芸能等を活用する機会を設けることで、文化財の魅力を発信することができた。また、郷土食調査事業の成果を関係団体や学校等と共有し連携を図るなど、文化財の継承活動への意識を高めた。